1. 臨床太郎, 臨床太郎：研究会誌における参考文献の書き方．・・・
2. 臨床花子, 歩行大輔：

※1)の後から参考文献をお書きください．改行すると，半確固付の参考文献番号と同時に，自動的に行番号が振られますが，そのままご執筆ください．査読用に必要です．参考文献リスト作成が終了した時には，この説明は削除をお願いします．

※参考文献の記載方法は以下ことをご参照いただきますようお願い致します．参考文献リスト作成が終了した時には，この文章及び以下の説明は削除をお願いします．

本文中での参考文献は，該当箇所の右肩に番号を2)もしくは1･2) 3〜7)のように記入する．参考文献の一覧は，下記の形式で本文の末尾にまとめて記載する.また,文献の一覧のカンマ,ピリオド，コロンは半角とし，後ろに半角スペースを入れる．原則として，WebページのURLを参考文献として用いることは認めない．

参考文献記載の書式はAPA（アメリカ心理学会）スタイルとする．

（１）雑誌の場合，

　―例―

1. 日本太郎, 東京治郎 (2012). 変形性股関節症の歩行分析. 臨床歩行分析研究会誌, 2(1), 10-15.
2. Nihon, T. and Tokyo, J. (2011). Biomechanics of hip joints. *Journal of Biomechanics*, 3(1), 20-25.

（２）書籍の場合

　―例―

1. 東京俊夫 (2001). 「歩行分析と運動制御」, 日本出版.
2. Tokyo, T. (2001). *Gait Analysis and motor control*, Tokyo, Nihon Press.

（３）編著書籍の場合

　―例―

1. 根本明宜 （2008). 歩行分析の歴史. 江原義弘, 山本澄子（編）, 「臨床歩行計測入門」　（pp. 1-6）, 医歯薬出版.
2. Davis, R.B., and Kaufman, K.R. (2002). Kinetics of normal walking. In J. Rose & J.G. Gamble (Eds), *Human walking 3rd ed.* (pp. 53-76), Philadelphia, Lippincott Williams & Wilkins.